令和5年度

| 科目名 | 栄養学 | 対象学科 | 鍼灸学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 和田政裕 | 配当年次 | 1 | 開講時期 | 1学期 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | 2 |

## 授業概要

人は生きていくのに必要なエネルギーを得るために、脳では「お腹がすいた」という感覚を作り出し、その結果私たちは食べ物を摂取するという行動をとる。そうして得た1回の食事が続くと食生活となり、私たちの健康や疾病の成り立ちに影響を及ぼす。このように生きているために起こる様々な身体の現象や身体の機能を生理といい、人の生理と摂取した栄養素の関係、および食品に含まれる栄養素の種類や性質を学ぶ。

## 到達目標

解剖学、生理学といった必修科目から発展して、人体の仕組みと生理が栄養と代謝にどう関わるのかを理解できるようになることを目標とする。人の自然治癒能力と栄養状態は密接に関係しており、鍼灸や徒手療法の治療効果を左右する要因となるため、ケガや症状と栄養の関係について考えアセスメントできるようになることを目指す。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | 栄養学とは　ガイダンス　食べることの意味を考える |
| 第2回 | 栄養状態の把握の仕方　栄養アセスメント1 |
| 第3回 | 栄養状態の把握の仕方　栄養アセスメント2 |
| 第4回 | 三大栄養素・五大栄養素 |
| 第5回 | 炭水化物 |
| 第6回 | たんぱく質 |
| 第7回 | 脂質１ |
| 第8回 | 脂質２ |
| 第9回 | 水溶性ビタミン１ |
| 第10回 | 水溶性ビタミン２ |
| 第11回 | ミネラル１ |
| 第12回 | ミネラル２ |
| 第13回 | ミネラル３ |
| 第14回 | 総括 |
| 第15回 | 試験 |
| 第16回 | 試験返却および解説 |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

事前学習：栄養学については知らないことばかりで構わないので、講義の前にテキストに目を通し、知らない言葉や読んでも理解できないことをはっきりさせてから講義に臨む。
事後学習：講義ノートや配布資料を見直し、知らない言葉の意味はわかったか、読んでも理解できなかったことは理解できたか、理解が出来たら覚えるということを繰り返す。

## 成績評価

試験内容にて評価。

## 使用テキスト

渡辺昌　「運動・からだ図解　栄養学の基本」マイナビ出版

## 担当教員の実務経験

令和5年度

| 科目名 | 薬膳学 | 対象学科 | 鍼灸学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 和田政裕 | 配当年次 | 1 | 開講時期 | 1学期 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | 2 |

**授業概要**

中医学の基礎理論に基づき、食物を用いた病の予防や健康維持、治療などについて研究する学問を「中医営養学」といい、薬膳とはこの理論に基づいた食養生法である。中医学の基礎理論に基づき「医食同理、薬食同源」の原則によって様々な食物と中薬を組み合わせ、その効能を発揮させ、病を予防、治療、回復を目指す薬膳の基礎から、季節の食養生、鍼灸治療と密接にかかわる各種疾患の薬膳について学ぶ。

**到達目標**

中医学の基礎理論と、季節の薬膳、各疾患に応じて、薬膳を組み立て食生活に摂り入れられるようになり、実際の鍼灸治療と合わせて患者へのアドバイスが行えるようになることを目標とする。

**授業計画**

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | 薬膳とは |
| 第2回 | 薬膳を学ぶための基礎知識１ |
| 第3回 | 薬膳を学ぶための基礎知識２ |
| 第4回 | 薬膳を学ぶための基礎知識３ |
| 第5回 | 補気の薬膳 |
| 第6回 | 春の薬膳 |
| 第7回 | 長夏の薬膳 |
| 第8回 | 夏の薬膳 |
| 第9回 | 秋の薬膳 |
| 第10回 | 冬の薬膳 |
| 第11回 | 感冒の薬膳 |
| 第12回 | 血虚の薬膳 |
| 第13回 | 便秘の薬膳 |
| 第14回 | 総括 |
| 第15回 | 試験 |
| 第16回 | 試験返却、解説 |
| | |
| | |
| | |
| | |

**授業時間外の学習**

事前学習：東洋医学概論の講義で学んだことを復習してくる。
事後学習：講義ノートや配布資料を見直し、知らない言葉の意味はわかったか、読んでも理解できなかったことは理解できたか、を確認し、理解が出来たら覚えるということを繰り返し、日々興味をもって食事をする。

**成績評価**

試験にて評価。

**使用テキスト**

梁蓓「すこやかな身体をつくる 薬膳食材大全」アプリスタイル

**担当教員の実務経験**

令和５年度

| 科目名 | コミュニケーション | 対象学科 | 鍼灸学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 米田　朝香 | 配当年次 | 3 | 開講時期 | 3学期 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | 1 |

## 授業概要

医療従事者として社会に出る前に、価値観の多様性を知り、他者と共に生きていくことの大切さを学ぶことが目的である。具体的には、他者と共生するために最も重要なコミュニケーションの基礎を学んだうえで、グループワークを通して自己・他者への理解を深めることができるようになる。また、自己を理解することで、今後のキヤリビジョンを具体化することができるようになる。

## 到達目標

コミュニケーションに関する基礎知識を身に付ける。
ワークを通して良い聴き手・良い伝え手になることができる。
他者との価値観の違いを理解することができる。
基本的なビジネスマナーを理解することができる。
自分自身を知り、将来のキャリビジョンを描くことができる。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | コミュニケーションとは何か |
| 第2回 | 対人コミュニケーション（聴く） |
| 第3回 | 対人コミュニケーション（伝える |
| 第4回 | 価値観の多様性を知る |
| 第5回 | ビジネスマナー |
| 第6回 | 職場におけるコミュニケーション |
| 第7回 | キャリアプランニング　（期末テスト：レポート提出） |
| 第8回 | 返却、まとめ |

## 授業時間外の学習

授業で学んだスキル、理論を日常生活でのコミュニケーションを通して身に付けていく

## 成績評価

年間出席の2/3以上の出席が原則。
グループワーク、および、振り返りで主体的かつ能動的な姿勢で取り組んでいること
定期試験60点以上で単位認定とする。

## 使用テキスト

毎回、資料を配布

## 担当教員の実務経験

令和5年度

| 科目名 | 人体の構造と機能A（運動器） | 対象学科 | 鍼灸学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 白崎　史剛 | 配当年次 | 1 | 開講時期 | 通年 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | 2 |

## 授業概要

この授業では、骨と筋肉を中心とした人体の運動器の構造と機能を学習することで、解剖学と生理学の基礎を理解し、西洋医学・東洋医学の両方の授業へつなげていく力を身につける。毎回、授業後にの確認テストをおこない、理解度の確認をおこなっていく。

## 到達目標

授業内容とともに予習と復習の学習方法を習得し、頭の中で人体の構造がイメージができること・西洋医学の授業や経絡経穴の授業へとつなげることができることを目標とする。また、国家試験に向けて４択問題に順応できるようになる。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 | 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | はじめに　運動の仕組み | 第21回 | 上肢の筋肉（３） |
| 第2回 | 解剖学的用語　骨・関節の構造と機能 | 第22回 | 上肢の筋肉（４） |
| 第3回 | 体幹の骨格（１） | 第23回 | 上肢の筋肉（５） |
| 第4回 | 体幹の骨格（２） | 第24回 | 下肢の筋肉（１） |
| 第5回 | 上肢の骨格（１） | 第25回 | 下肢の筋肉（２） |
| 第6回 | 上肢の骨格（２） | 第26回 | 下肢の筋肉（３） |
| 第7回 | 上肢の関節（１） | 第27回 | 下肢の筋肉（４） |
| 第8回 | 上肢の関節（２） | 第28回 | 下肢の筋肉（５） |
| 第9回 | 下肢の骨格（１） | 第29回 | 四肢先端の筋肉 |
| 第10回 | 下肢の骨格（２） | 第30回 | 第17回～第28回までの復習 |
| 第11回 | 下肢の骨格（３） | 第31回 | 期末定期試験 |
| 第12回 | 下肢の関節（１） | 第32回 | 定期試験の解説と補足 |
| 第13回 | 下肢の関節（２） | 第33回 | 体幹の筋肉（１） |
| 第14回 | 第1回～第13回までの復習 | 第34回 | 体幹の筋肉（２） |
| 第15回 | 期末定期試験 | 第35回 | 頭頚部の筋肉 |
| 第16回 | 定期試験の解説と補足 | 第36回 | ROM　骨格筋の構造と機能 |
| 第17回 | 頭蓋骨の骨 | 第37回 | 筋収縮の機構　骨格筋の分類と補助機能 |
| 第18回 | 頭蓋骨の骨と縫合・泉門・関節 | 第38回 | 第1回～第37回までの復習 |
| 第19回 | 上肢の筋肉（１） | 第39回 | 期末定期試験 |
| 第20回 | 上肢の筋肉（２） | 第40回 | 定期試験の解説と補足 |

## 授業時間外の学習

予習：次回の授業で行う範囲の読んでくることとその範囲の図解をイメージできるようにする。
復習：今回の授業で行った範囲をもう一度読み、理解しているかの確認と頭の中にイメージできるかを確認する。
（トレーシングペーパーなどで骨や筋肉をなぞることでイメージがつきやすくなる）

## 成績評価

定期試験の得点により評価する。定期試験100%、4分野すべて及第点で単位取得となる。
※３学期の期末定期試験は１学期～３学期のすべての範囲とする。

## 使用テキスト

## 担当教員の実務経験

施術所において、はり師きゅう師としての実務経験を有する。

令和5年度

| 科目名 | 人体の構造と機能B | 対象学科 | 鍼灸学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 内山　美紅 | 配当年次 | 1 | 開講時期 | 通年 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | 1 |

## 授業概要

西洋医学の基本となる、解剖学・生理学を習得し他の分野に対応できる力を身につける。人体の仕組みを理解することで刺鍼部位や経穴の取穴の場所も把握する力を身につける。また、授業と問題の演習を行うことで国家試験に対応できる力を身につける。

## 到達目標

授業内での講義や授業後に確認テストなどを行い、西洋科目の基礎を身につけられるようになる。毎回の授業後の範囲の確認テストを実施することで4択問題に触れることで国家試験に対応できる力を身につけられるようになる。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 | 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | オリエンテーション | 第21回 | 第5章　リンパ系 |
| 第2回 | 第1章　人体の構成① | 第22回 | 第6章　血液① |
| 第3回 | 第1章　人体の構成② | 第23回 | 第6章　血液② |
| 第4回 | 第1章　人体の構成③ | 第24回 | 第6章　血液② |
| 第5回 | 第1章　人体の構成④ | 第25回 | 第6章　生体防御機構① |
| 第6回 | 第5章　循環系① | 第26回 | 第6章　生体防御機構② |
| 第7回 | 第5章　心臓① | 第27回 | 第6章　生体防御機構③ |
| 第8回 | 第5章　心臓② | 第28回 | 総復習　第5章血液から第6章 |
| 第9回 | 第5章　心臓③ | 第29回 | 総復習　第5章血液から第6章 |
| 第10回 | 第5章　血管系① | 第30回 | 定期試験 |
| 第11回 | 第5章　血管系② | 第31回 | 定期試験解説 |
| 第12回 | 第5章　血管系③ | 第32回 | 第12章　身体の腔所 |
| 第13回 | 第5章　血管系④ | 第33回 | 第12章　体表解剖① |
| 第14回 | 総復習　第1章と第5章 | 第34回 | 第12章　体表解剖② |
| 第15回 | 定期試験 | 第35回 | 第12章　体表解剖③ |
| 第16回 | 定期試験解説 | 第36回 | 第12章　体表解剖④ |
| 第17回 | 第5章　血管系⑤ | 第37回 | 総復習① |
| 第18回 | 第5章　血管系⑥ | 第38回 | 総復習② |
| 第19回 | 第5章　血管系⑦ | 第39回 | 総復習③ |
| 第20回 | 第5章　血圧と脈拍 | 第40回 | 定期試験 |

## 授業時間外の学習

授業内での講義や授業後にＵＭＵを使った確認テスト

## 成績評価

定期試験の得点により評価する。定期試験100%、4分野すべて及第点で単位取得となる。
※３学期の期末定期試験は１学期～３学期のすべての範囲とする。

## 使用テキスト

東洋療法学校協会「解剖生理」　東洋療法学校協会「解剖学」　東洋療法学校協会「生理学」

## 担当教員の実務経験

施術所において、はり師きゅう師としての実務経験を有する。

令和5年度

| 科目名 | 人体の構造と機能C | 対象学科 | 鍼灸学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 久住　喜春 | 配当年次 | 1 | 開講時期 | 通年 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | 5 |

## 授業概要

人体の構造と機能の中の「神経系」と「感覚器系」について学習する。適宜配布資料を提示し、座学授業を行う。理解度を見るために小テストを実施する。

## 到達目標

人体を構成する器官とその機能について理解することを目的とする。具体的には「神経系」「感覚器系」の構造と機能を説明できるようになる。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 | 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | ガイダンス、神経系とは　神経組織について | 第21回 | 中枢神経④ |
| 第2回 | 神経組組。ニューロンについて | 第22回 | 中枢神経⑤ |
| 第3回 | 末梢神経系① | 第23回 | 中枢神経⑥ |
| 第4回 | 末梢神経系② | 第24回 | 中枢神経⑦ |
| 第5回 | 末梢神経系③ | 第25回 | 中枢神経⑧ |
| 第6回 | 末梢神経系④ | 第26回 | 伝導路 |
| 第7回 | 末梢神経系⑤ | 第27回 | 運動反射 |
| 第8回 | 末梢神経系⑥ | 第28回 | 運動反射・自律神経反射 |
| 第9回 | 末梢神経系⑦ | 第29回 | 自律神経反射 |
| 第10回 | 末梢神経系⑧ | 第30回 | 試験前総復習 |
| 第11回 | 自律神経① | 第31回 | 定期試験 |
| 第12回 | 自律神経② | 第32回 | 試験解説 |
| 第13回 | 自律神経③ | 第33回 | 感覚器系① |
| 第14回 | 自律神経④ | 第34回 | 感覚器系② |
| 第15回 | 定期試験 | 第35回 | 感覚器系③ |
| 第16回 | 試験返却・解説 | 第36回 | 特殊感覚① |
| 第17回 | 中枢神経① | 第37回 | 特殊感覚② |
| 第18回 | 中枢神経② | 第38回 | 特殊感覚③ |
| 第19回 | 中枢神経③ | 第39回 | 定期試験 |
| 第20回 | 中枢神経④ | 第40回 | 試験解説 |

## 授業時間外の学習

事前学習：配布資料による予習。　　事後学習：小テストで理解度を把握し、復習する

## 成績評価

定期試験の得点により評価する。定期試験100%　4分野すべて及第点で単位取得となる。

## 使用テキスト

『人体の構造と機能』　第1版　東洋療法学校協会編

## 担当教員の実務経験

施術所において、はり師きゅう師としての実務経験を有する。

令和5年度

| 科目名 | 人体の構造と機能D | 対象学科 | 鍼灸学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 山上　正典 | 配当年次 | 1 | 開講時期 | 通年 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | 1 |

## 授業概要

西洋系科目の基礎である人体の構造と機能は、2年生以降に学習する病理学、臨床医学総論、臨床医学各論、リハビリテーション医学を習得するために必要不可欠の科目である。
人体の構造と機能Dでは、呼吸系・消化器系・泌尿器系・内分泌系・生殖器系について学習する。

## 到達目標

座学や問題演習を通じて、国家試験のA問題（難易度が低く基礎的な内容）を概ね解けるようになる。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 | 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | 初回ガイダンス・呼吸器系解剖① | 第21回 | 内分泌解剖① |
| 第2回 | 呼吸器系解剖② | 第22回 | 内分泌解剖② |
| 第3回 | 呼吸器系生理学③ | 第23回 | 内分泌生理学② |
| 第4回 | 呼吸器系生理学④ | 第24回 | 内分泌生理学③ |
| 第5回 | 消化器系解剖① | 第25回 | 内分泌生理学④ |
| 第6回 | 消化器系解剖② | 第26回 | 泌尿器系・内分泌復習 |
| 第7回 | 消化器系解剖③ | 第27回 | 生殖器系解剖① |
| 第8回 | 消化器系生理学④ | 第28回 | 生殖器系解剖② |
| 第9回 | 消化器系生理学⑤ | 第29回 | 定期試験対策 |
| 第10回 | 消化器系生理学⑥ | 第30回 | 問題演習 |
| 第11回 | 呼吸・消化器系総復習 | 第31回 | 2学期定期試験 |
| 第12回 | 代謝① | 第32回 | 試験解説 |
| 第13回 | 定期試験対策 | 第33回 | 生殖器系生理学① |
| 第14回 | 代謝② | 第34回 | 生殖器系生理学② |
| 第15回 | 1学期定期試験 | 第35回 | 総復習・問題演習① |
| 第16回 | 試験解説 | 第36回 | 総復習・問題演習② |
| 第17回 | 泌尿器系解剖① | 第37回 | 定期試験対策 |
| 第18回 | 泌尿器系解剖② | 第38回 | 総復習・問題演習③ |
| 第19回 | 泌尿器系生理学③ | 第39回 | 3学期定期試験 |
| 第20回 | 泌尿器系生理学④ | 第40回 | 試験解説 |

## 授業時間外の学習

その日に行った授業内容の復習。
UMUによる確認証テストや配布プリントによる問題演習。

## 成績評価

定期試験の得点により評価する。定期試験100%、4分野すべて及第点で単位取得となる。
※３学期の期末定期試験は１学期～３学期のすべての範囲とする。

## 使用テキスト

『解剖生理』東洋療法学校協会編

## 担当教員の実務経験

施術所において、はり師きゅう師としての実務経験を有する。

令和5年度

| 科目名 | 病理学 | 対象学科 | 鍼灸学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 山田 善章 | 配当年次 | 2 | 開講時期 | 通年 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | 1 |

## 授業概要

『病理学』（東洋療法学校協会、医歯薬出版株式会社）を使用し、座学講義を行う。

## 到達目標

医療従事者としての共通認識を深めるために、医学の基礎知識を身に付けることを目的とする。
具体的には「病因」「循環障害」「退行性病変」「進行性病変」「炎症」「腫瘍」「免疫異常・アレルギー」「先天性異常」について説明できるようになる。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 | 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | 第１章　病理学とは　第２章　基本的考え方 | 第21回 | 第７章　炎症 |
| 第2回 | 第３章　病因　内因 | 第22回 | 第７章　炎症 |
| 第3回 | 第３章　病因　内因 | 第23回 | 第７章　炎症 |
| 第4回 | 第３章　病因　外因 | 第24回 | 第８章　腫瘍 |
| 第5回 | 第３章　病因　外因 | 第25回 | 第８章　腫瘍 |
| 第6回 | 第３章　病因　外因 | 第26回 | 第８章　腫瘍 |
| 第7回 | 第４章　循環障害 | 第27回 | 第８章　腫瘍 |
| 第8回 | 第４章　循環障害 | 第28回 | 第８章　腫瘍 |
| 第9回 | 第４章　循環障害 | 第29回 | 第８章　腫瘍 |
| 第10回 | 第４章　循環障害 | 第30回 | 第８章　腫瘍 |
| 第11回 | 第５章　退行性変性 | 第31回 | 定期試験 |
| 第12回 | 第５章　退行性変性 | 第32回 | 定期試験解説 |
| 第13回 | 第５章　退行性変性 | 第33回 | 第９章　免疫異常・アレルギー |
| 第14回 | 第５章　退行性変性 | 第34回 | 第９章　免疫異常・アレルギー |
| 第15回 | 定期試験 | 第35回 | 第９章　免疫異常・アレルギー |
| 第16回 | 定期試験解説 | 第36回 | 第１０章　先天性異常 |
| 第17回 | 第６章　進行性変性 | 第37回 | 第１０章　先天性異常 |
| 第18回 | 第６章　進行性変性 | 第38回 | 第１０章　先天性異常 |
| 第19回 | 第６章　進行性変性 | 第39回 | 定期試験 |
| 第20回 | 第７章　炎症 | 第40回 | 定期試験解説 |

## 授業時間外の学習

事前学習：教科書などにより講義内容を把握しておく。
事後学習：教科書、配布プリント等を参考に復習を行う。

## 成績評価

定期試験で評価。

## 使用テキスト

『病理学』第２版（東洋療法学校協会、医歯薬出版株式会社）。毎回資料を配布。

## 担当教員の実務経験

施術所において、はり師きゅう師としての実務経験を有する。

令和5年度

| 科目名 | 臨床医学総論 | 対象学科 | 鍼灸学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 阿江　邦公 | 配当年次 | 2 | 開講時期 | 通年 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | 1 |

## 授業概要

『臨床医学総論』第２版（東洋療法学校協会編、医歯薬出版社発行）を使用し、座学講義を行う。随時、参考資料を提示する。

## 到達目標

鍼灸臨床現場で疾病の判別をするための知識を身につけることを目的とする。
具体的には「診察」「カルテの書き方」「生命徴候」「身体の病的特徴」「神経系の病的特徴」「運動機能の病的特徴」「症候」「検査法」「臨床心理」について説明できるようになる。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 | 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | オリエンテーション（科目の概要説明、1年間の流れ） | 第21回 | 第6章、神経系の診察（反射検査） |
| 第2回 | 第1章、診察の概要 | 第22回 | 第6章、神経系の診察（反射検査） |
| 第3回 | 第2章、診察の方法（医療面接、視診、触診、打診） | 第23回 | 第6章、神経系の診察（脳神経系の検査） |
| 第4回 | 第2章、診察の方法（聴診、測定法、神経系診察） | 第24回 | 第6章、神経系の診察（脳神経系の検査） |
| 第5回 | 第3章、生命徴候の診察（体温、脈拍） | 第25回 | 第6章、神経系の診察（その他の神経学的検査） |
| 第6回 | 第3章、生命徴候の診察（血圧） | 第26回 | 第7章、運動機能検査（運動麻痺） |
| 第7回 | 第3章、生命徴候の診察（呼吸） | 第27回 | 第7章、運動機能検査（筋肉の異常） |
| 第8回 | 第4章、全身の診察（顔貌、精神状態） | 第28回 | 第7章、運動機能検査（不随意運動） |
| 第9回 | 第4章、全身の診察（言語、身体計測） | 第29回 | 第7章、運動機能検査（協調運動、起立と歩行、 |
| 第10回 | 第4章、全身の診察（体格、栄養状態、姿勢） | 第30回 | 第7章、運動機能検査（徒手検査） |
| 第11回 | 第4章、全身の診察（歩行、皮膚） | 第31回 | 定期試験 |
| 第12回 | 第4章、全身の診察（皮膚、爪の状態、リンパ節） | 第32回 | 定期試験解説 |
| 第13回 | 第5章、局所の診察（頭部、顔面、眼、鼻、耳） | 第33回 | 第8章、その他の診察 |
| 第14回 | 第5章、局所の診察（口腔、頚部、胸部、乳房、肺・胸 | 第34回 | 第9章、臨床検査法（一般検査） |
| 第15回 | 定期試験 | 第35回 | 第9章、臨床検査法（血液生化学検査） |
| 第16回 | 定期試験解説 | 第36回 | 第9章、臨床検査法（画像診断） |
| 第17回 | 第5章、局所の診察（心臓、腹部） | 第37回 | 第11章、治療学 |
| 第18回 | 第5章、局所の診察（背部） | 第38回 | 第12章、臨床心理 |
| 第19回 | 第5章、局所の診察（四肢） | 第39回 | 定期試験 |
| 第20回 | 第6章、神経系の診察（感覚検査法） | 第40回 | 定期試験解説 |

## 授業時間外の学習

事前学習：教科書などにより講義内容を把握しておく。
事後学習：教科書、参考資料等を使用し復習を行う。

## 成績評価

定期試験にて評価する。

## 使用テキスト

『臨床医学総論　第２版』（東洋療法学校協会編、医歯薬出版社発行）を使用する。

## 担当教員の実務経験

施術所において、はり師きゅう師としての実務経験を有する。

令和5年度

| 科目名 | 臨床医学各論 | 対象学科 | 鍼灸学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 濱村　舜 | 配当年次 | 2 | 開講時期 | 通年 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | |

## 授業概要

西洋医学における病名・病態生理・症状・治療法まで一貫して学び、国家試験合格に繋げる点数を獲得出来る状態にし、鍼灸の適不適を判断できるような知識を身に着けることを目的とする。

## 到達目標

第１：国家試験当日に22問中で17問以上（8割）の点数を取れるようにする。
また、別科目の臨床医学総論、病理学、解剖学、生理学と関連付け柔軟な思考を持ち、点数を獲得できるようにする。

第２：現場で鍼灸不適応を見逃さないような知識を身につける。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 | 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | ガイダンス | 第21回 | 6章：副腎皮質機能行進・低下症、原発性アルドステロン |
| 第2回 | 第2章消化管：食道癌、食道潰瘍、マロリーワイス、胃・十二指腸潰瘍、胃炎 | 第22回 | 6章：褐色細胞腫、グルカゴノーマ、インスリノーマ、ガストリノーマ |
| 第3回 | 2章：潰瘍性大腸炎、クローン病、過敏性腸症候群、虫垂炎、大腸癌 | 第23回 | 6章：確認 |
| 第4回 | 2章：イレウス、鼠径ヘルニア、2章復習 | 第24回 | 第7章代謝・栄養：糖尿病 |
| 第5回 | 第3章肝胆膵：急性肝炎 | 第25回 | 7章：痛風、偽痛風、ビタミン疾患 |
| 第6回 | 3章：慢性肝炎、肝硬変、肝癌、薬剤・アルコール性障害、脂肪肝 | 第26回 | 7章：ヘモクロマトーシス、亜鉛欠乏症、低血糖 |
| 第7回 | 3章：胆石、胆嚢癌・胆管癌、膵炎、膵癌 | 第27回 | 第7章：確認 |
| 第8回 | 3章：確認 | 第28回 | 第8章整形外科：五十肩、腱板損傷、変形性関節症 |
| 第9回 | 第4章呼吸器：上気道感染、肺炎、結核、非結核性抗酸菌症 | 第29回 | 8章：骨粗鬆症、くる病 |
| 第10回 | 4章：慢性閉塞性肺疾患、喘息 | 第30回 | 8章：骨腫瘍、腱鞘炎、重症筋無力症 |
| 第11回 | 4章：間質性肺炎、肺腺症、塵肺、気胸 | 第31回 | 期末試験 |
| 第12回 | 4章：肺癌、中皮腫、肺塞栓症、過換気症候群、睡眠時無呼吸症候群 | 第32回 | 期末試験解説 |
| 第13回 | 4章：確認 | 第33回 | 8章：股関節形成不全、斜頚、側弯、外反母趾 |
| 第14回 | 第5章腎泌尿器：腎炎、ネフローゼ症候群、糖尿病性腎症 | 第34回 | 8章：内反足、後縦靱帯骨化症、黄色靱帯骨化症、脊椎分離すべり症 |
| 第15回 | 5章：慢性腎臓病、腎不全 | 第35回 | 8章：ヘルニア、頚椎捻挫 |
| 第16回 | 5章：腎尿管結石、前立腺肥大・炎症・癌 | 第36回 | 8章：脊髄損傷、骨折、肘内障 |
| 第17回 | 5章：勃起不全、腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎、過活動膀胱 | 第37回 | 8章：脱臼、捻挫、上腕骨外側上顆炎・内側上顆炎、野球肘、ジャンパー膝 |
| 第18回 | 5章：確認 | 第38回 | 8章：胸郭出口症候群、頸肩腕症候群 |
| 第19回 | 第6章内分泌：ホルモン、先端巨大症、低身長症、非機能性下垂体腺腫、シーハン症候群 | 第39回 | 8章：確認 |
| 第20回 | 6章：甲状腺機能行進症・低下症・クレチン症、副甲状腺行進・低下症 | 第40回 | 第9章循環器：僧帽弁狭窄症・閉鎖不全症、大動脈弁狭窄症・閉鎖不全症 |

## 授業時間外の学習

教科書、プリント、参考書、インターネットを用いて予習復習を行う。
国家試験の過去問、模擬試験を活用し4択問題の傾向や問い方に慣れる。

## 成績評価

出席日数が規定以上を満たしている、期末試験で60点以上取得により単位を認める。

## 使用テキスト

臨床医学各論＜第2版＞医歯薬出版
臨床医学各論追加資料

## 担当教員の実務経験

施術所において、はり師きゅう師としての実務経験を有する。

令和5年度

| 科目名 | 臨床医学各論 | 対象学科 | 鍼灸学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 濱村　舜 | 配当年次 | 2 | 開講時期 | 通年 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | 0 |

## 授業概要

西洋医学における病名・病態生理・症状・治療法まで一貫して学び、国家試験合格に繋げる点数を獲得出来る状態にし、鍼灸の適不適を判断できるような知識を身に着けることを目的とする。

## 到達目標

第１：国家試験当日に22問中で17問以上（8割）の点数を取れるようにする。
また、別科目の臨床医学総論、病理学、解剖学、生理学と関連付け柔軟な思考を持ち、点数を獲得できるようにする。

第２：現場で鍼灸不適応を見逃さないような知識を身につける。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 | 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|---|---|
| 第41回 | 9章：狭心症、心不全 | 第61回 | 期末試験 |
| 第42回 | 9章：不整脈、頻脈性不整脈、期外収縮、徐脈性不整脈 | 第62回 | 期末試験解説 |
| 第43回 | 9章：心房中隔・心室中隔欠損症、肥大性心筋症、拡張型心筋症、心筋炎 | 第63回 | 第12章膠原病：関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、強皮症 |
| 第44回 | 9章：心膜炎、心タンポナーデ、大動脈瘤、大動脈解離、高血圧症 | 第64回 | 12章：ベーチェット病、皮膚筋炎、シェーグレン症候群 |
| 第45回 | 9章：閉塞性動脈硬化症、閉塞性血管血栓炎、高安動脈炎 | 第65回 | 12章：確認 |
| 第46回 | 9章：下肢静脈瘤、深部静脈血栓症、リンパ浮腫 | 第66回 | 13章　婦人科：子宮癌、乳癌、子宮内膜症、筋腫、乳腺炎、更年期 |
| 第47回 | 9章：確認 | 第67回 | 13章　精神科：パニック障害、統合失調症、うつ病、双極性障害 |
| 第48回 | 10章：貧血（鉄欠、巨赤芽球、溶血、再生不良） | 第68回 | 13章　精神科：むずむず、せん妄、自閉症、ADHD、PTSD、協調運動運動障害 |
| 第49回 | 10章：白血病、紫斑病、血友病 | 第69回 | 13章　眼科：白内障、緑内障、飛蚊症、網膜剥離、加齢性網膜変性症 |
| 第50回 | 10章：確認 | 第70回 | 13章　耳鼻咽喉科：メニエール病、良性頭位めまい症、前庭神経炎、突発性難聴 |
| 第51回 | 第11章神経系：構造と機能2 | 第71回 | 13章　耳鼻咽喉科：扁桃周囲炎、声帯ポリープ、咽頭・喉頭癌 |
| 第52回 | 11章：構造と機能2 | 第72回 | 13章　一般外科：ショック、救急処置、ＡＥＤ、アトピー性皮膚炎 |
| 第53回 | 11章：脳梗塞、脳出血 | 第73回 | 第１章感染症：ブドウ球菌、破傷風、百日咳、ジフテリア菌、猩紅熱 |
| 第54回 | 11章：クモ膜下出血、髄膜炎、プリオン、ポリオ | 第74回 | １章：サルモネラ菌、腸炎ビブリオ、黄色ブドウ球菌、大腸菌、ボツリヌス菌 |
| 第55回 | 11章：脳腫瘍、パーキンソン病、舞踏病、脳性麻痺 | 第75回 | １章：赤痢、コレラ、チフス、アニサキス症 |
| 第56回 | 11章：脊髄小脳変性症、認知症 | 第76回 | １章：麻疹、風疹、水痘・帯状疱疹、梅毒、淋菌、エイズ |
| 第57回 | 11章：ランバート・イートン、重症筋無力症、筋ジストロフィー、筋萎縮性側索硬化症 | 第77回 | １章：レジオネラ菌、コクサッキーウイルス、アデノウイルス、ヒトパピローマウイルス、カンジタ症 |
| 第58回 | 11章：ギランバレー症候群、手根管症候群、正中・橈骨麻痺・尺骨・総腓骨神経麻痺 | 第78回 | １章：確認 |
| 第59回 | 11章：顔面神経麻痺、三叉神経痛、頭痛、てんかん | 第79回 | 期末試験 |
| 第60回 | 11章：確認 | 第80回 | 期末試験解説 |

## 授業時間外の学習

教科書、プリント、参考書、インターネットを用いて予習復習を行う。
国家試験の過去問、模擬試験を活用し4択問題の傾向や問い方に慣れる。

## 成績評価

出席日数が規定以上を満たしている、期末試験で60点以上取得により単位を認める。

## 使用テキスト

臨床医学各論＜第2版＞医歯薬出版
臨床医学各論追加資料

## 担当教員の実務経験

施術所において、はり師きゅう師としての実務経験を有する。

令和５年度

| 科目名 | リハビリテーション医学 | 対象学科 | はり・きゅう学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 渡辺　長 | 配当年次 | 3 | 開講時期 | 通年 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | 5 |

## 授業概要

昨今の深刻な高齢化社会においてリハビリテーションの重要性は高まっている。リハビリテーションの在り方は機能的プローチに留まらず、身体的・精神的・社会的にあるべき状態への回復を目指すことにある。この実践は医療従事者が一方的に提供するものではなく、鍼灸師はもちろん地域住民をも含めたアクターが相互に情報共有や役割を果たしながら、創りあげていくものである。本科目では、鍼灸師の観点から必要なリハビリテーションの概念、知識及び技術の習得を目指すと共に、鍼灸師に期待される役割を学習する。そのため講義の中では生物学的知識の習得に限らず、他職種が果たす役割も交えながら、具体的事例の介入と効果について学んでいく。また進め方の基本として学生各々が自らの考えを発展させ応用できるようにアクティブラーニングの要素を積極的に取り入れていく。

## 到達目標

・高齢化にまつわる日本社会や経済の変動と医療専門職が置かれた状況を理解する。
・リハビリテーションの本義的観点から患者アプローチを再考できる視点を身に付ける。
・鍼灸師（国家試験）に求められるリハビリテーションの要素を体系的に理解する。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 | 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | リハビリテーションの理念・障害モデル | 第21回 | 呼吸循環器疾患のリハビリテーション１ |
| 第2回 | 障害の捉え方 | 第22回 | 呼吸循環器疾患のリハビリテーション２ |
| 第3回 | 筋力増強訓練と筋収縮様式 | 第23回 | 運動学各論・姿勢と歩行分析１ |
| 第4回 | 筋力トレーニングの種類　実技 | 第24回 | 姿勢と歩行分析　実技 |
| 第5回 | 拘縮と関節可動域訓練 | 第25回 | 整形外科疾患のリハビリテーション１ |
| 第6回 | 関節可動域訓練の方法　実技 | 第26回 | 整形外科疾患の評価　実技 |
| 第7回 | リハビリテーションにおける治療（物理療法） | 第27回 | 整形外科疾患のリハビリテーション２ |
| 第8回 | 寒冷療法と筋力トレーニング　実技 | 第28回 | 整形外科疾患の治療　実技 |
| 第9回 | 脳卒中のリハビリテーション病態と分類 | 第29回 | 脊髄損傷のリハビリテーション１ |
| 第10回 | 脳卒中患者に対する評価方法　実技 | 第30回 | 脊髄損傷のリハビリテーション２ |
| 第11回 | 脳卒中のリハビリテーション失語とADL | 第31回 | 定期試験 |
| 第12回 | 脳卒中患者に対する治療アプローチ　実技 | 第32回 | 解説/まとめ |
| 第13回 | 義肢切断のリハビリテーション1 | 第33回 | 3学期：理念・ICF・評価学の復習 |
| 第14回 | 義肢切断のリハビリテーション2 | 第34回 | 3学期：理念・ICF・評価学の復習 |
| 第15回 | 定期試験 | 第35回 | 3学期：物理療法・脳卒中の復習 |
| 第16回 | 解説/まとめ | 第36回 | 3学期：物理療法・脳卒中の復習 |
| 第17回 | 補装具療法のリハビリテーション１ | 第37回 | 3学期：脊髄損傷の復習 |
| 第18回 | 補装具療法のリハビリテーション２ | 第38回 | 3学期：脊髄損傷の復習 |
| 第19回 | 小児疾患のリハビリテーション１ | 第39回 | 3学期：義肢装具の復習 |
| 第20回 | 小児疾患のリハビリテーション２ | 第40回 | 3学期：その他の復習（高次脳障害など） |

## 授業時間外の学習

予習：各回のテーマについて事前に教科書や信頼のおけるウェブサイトに目を通しておくこと。
復習：学習した内容について知識の整理と定着を図ること。疑問点などがあれば担当教員に相談すること。
対象疾患の多くは加齢障害に基づくものなので、解剖学・生理学・運動学との繋がりを意識しながら学習を進めること。

## 成績評価

年間出席の2/3以上の出席と定期試験（100%）で評価を行う。

## 使用テキスト

・授業資料を配布する.
・東洋療法学校協会編, リハビリテーション医学改訂第4版, 医歯薬出版会社.

## 担当教員の実務経験

理学療法士として総合病院で勤務し、主に高齢者疾患を対象としたリハビリテーションに従事.

令和５年度

| 科目名 | 医療概論・社会保障制度 | 対象学科 | はり・きゅう学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 久住　喜春 | 配当年次 | 3 | 開講時期 | 2学期 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | 2 |

**授業概要**

随時プリントを配布し、パワーポイントを使って座学講義をおこなう。

**到達目標**

医療の歴史（日本医学史）、医療制度、社会保険制度、医療従事者の倫理、現代社会において西洋医学と東洋医学が提示する問題について理解できるようになる。

**授業計画**

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | ガイダンス・日本医学の歴史① |
| 第2回 | 日本医学の歴史② |
| 第3回 | 現代医学・健康問題について |
| 第4回 | 医療従事者、医療施設、国民医療費 |
| 第5回 | 社会保障制度① |
| 第6回 | 社会保障制度② |
| 第7回 | 医療保険のしくみ |
| 第8回 | 療養費について |
| 第9回 | 生活保護、後期高齢者医療制度 |
| 第10回 | 公費医療、介護保険制度 |
| 第11回 | 介護保険制度 |
| 第12回 | 医療倫理① |
| 第13回 | 医療従事者の倫理 |
| 第14回 | 総復習 |
| 第15回 | 定期試験 |
| 第16回 | 試験解説 |
| | |
| | |
| | |
| | |

**授業時間外の学習**

事後学習：配布資料を基に復習をしておくこと

**成績評価**

定期試験の得点により評価する。　定期試験100％

**使用テキスト**

随時資料を配布

**担当教員の実務経験**

施術所において、はり師きゅう師としての実務経験を有する。

令和5年度

| 科目名 | 関係法規 | 対象学科 | 鍼灸学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 久住　喜春 | 配当年次 | 1 | 開講時期 | 2学期 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | 2 |

**授業概要**

『関係法規』（東洋療法学校協会編、医歯薬出版社発行）を使用し、座学講義を行う。随時プリントを配布し、適宜参考資料を提示する。

**到達目標**

「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律」について、我々の身分法となってる法律の中身（免許・業務・広告・罰則等）の知識を身につける。また医療関係法規（医師法、医療法、薬機法）や社会福祉法規（生活保護法等）の目的や内容が説明できるようになる。

**授業計画**

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | 法とは |
| 第3回 | 「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律」①免許について |
| 第4回 | 「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律」②免許の関する事務 |
| 第5回 | 「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律」③業務について |
| 第6回 | 「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律」④施術所について |
| 第7回 | 「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律」⑤名称制限について |
| 第8回 | 「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律」⑥広告制限について |
| 第9回 | 「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律」⑦医業類似行為について |
| 第10回 | 「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律」⑧罰則・罰金・両罰規定について |
| 第11回 | あはきとの関連法規① |
| 第12回 | あはきとの関連法規② |
| 第13回 | あはきとの関連法規③ |
| 第14回 | 総復習 |
| 第15回 | 定期試験 |
| 第16回 | 試験返却、解説 |
| | |
| | |
| | |
| | |

**授業時間外の学習**

事後学習：配布プリントを基に教科書を参考に復習を行う。

**成績評価**

定期試験をもって評価する。

**使用テキスト**

『関係法規』（東洋療法学校協会編、医歯薬出版社発行）を使用する。

**担当教員の実務経験**

施術所において、はり師きゅう師としての実務経験を有する。

令和5年度

| 科目名 | 経絡経穴概論 | 対象学科 | 鍼灸学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 白崎　史剛 | 配当年次 | 1 | 開講時期 | 通年 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | 5 |

## 授業概要

この授業では、鍼灸師として大切になってくる「ツボ」を学ぶ授業であり、どのようなツボの流れがあり、その「ツボ」の由来、位置、機能を理解する。毎回、授業後に確認テストを行うとともに暗唱テストを実施する。また、２学期の後半には、実技として実際にツボをとる授業をおこない、他の実技や東洋医学臨床論につなげていく。

## 到達目標

十四経脈の流注、経穴名とその順番、部位を確実に覚え、その「ツボ」を実際の人体で骨度法を使いながら、取穴することができることを目標とする。また、その経穴に関連する筋肉、神経、動脈までの理解を目標とする。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 | 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | はじめに　臓腑の概要 | 第21回 | 足の太陽膀胱経（前半）の経穴 |
| 第2回 | 経絡と経穴の概要 | 第22回 | 足の太陽膀胱経（中間）の経穴 |
| 第3回 | 経穴の概要 | 第23回 | 足の太陽膀胱経（後半）の経穴 |
| 第4回 | 五兪穴と五要穴 | 第24回 | 足の少陰腎経の経穴 |
| 第5回 | 取穴時に関する用語　督脈と任脈の流注 | 第25回 | 手の厥陰心包経・手の少陽三焦経の経穴 |
| 第6回 | 肺経・大腸経・胃経の流注 | 第26回 | 足の少陽胆経（前半）の経穴 |
| 第7回 | 脾経・心経・小腸経の流注 | 第27回 | 足の少陽胆経（後半）の経穴 |
| 第8回 | 膀胱経・腎経・心包経の流注 | 第28回 | 足の厥陰肝経の経穴 |
| 第9回 | 三焦経・胆経・肝経の流注 | 第29回 | 奇穴と組み合わせ |
| 第10回 | 督脈の経穴 | 第30回 | 第17回～第28回の復習 |
| 第11回 | 任脈の経穴 | 第31回 | 期末定期試験 |
| 第12回 | 手の太陰肺経の経穴 | 第32回 | 定期試験の解説と補足 |
| 第13回 | 手の陽明大腸経の経穴 | 第33回 | 奇経八脈とその他の要穴 |
| 第14回 | 第1回～第13回までの復習 | 第34回 | 経穴と筋肉（上肢） |
| 第15回 | 期末定期試験 | 第35回 | 経穴と筋肉（下肢） |
| 第16回 | 定期試験の解説と補足 | 第36回 | 経穴と神経 |
| 第17回 | 足の陽明胃経（前半）の経穴 | 第37回 | 経穴と動脈 |
| 第18回 | 足の陽明胃経（後半）の経穴 | 第38回 | 現代的研究と1学期からの全体の復習 |
| 第19回 | 足の太陰脾経の経穴 | 第39回 | 期末定期試験 |
| 第20回 | 手の少陰心経・手の太陽小腸経の経穴 | 第40回 | 定期試験の解説と補足 |

## 授業時間外の学習

予習：次回の授業で行う範囲の読んでくることとその範囲の図解をイメージできるようにする。
復習：今回の授業で行った範囲をもう一度読み、理解しているかの確認と暗唱の繰り返しによる頭の中への刷り込み

## 成績評価

期末の定期試験及び、授業の出席状況や授業態度を加味して評価を行う　３学
期の期末定期試験は１学期～３学期のすべての範囲とする　２学
期の第９回目の授業から講義とは別に「触診の実技」を３学期を含めて計１６回行う。この実技での期末テストは行わないが、実技への出席状況や授業態度、身だしなみなどの施術者としての立ち振る舞いは評価にしっかりと含まれる。

## 使用テキスト

教科書　「経絡経穴概論（医道の日本社）」と配布プリント
参考資料「解剖生理学（東洋療法学校協会編　医歯薬出版）」　参
考資料「プロメテウス解剖学アトラス（医学書院）」のような解剖学の図譜があるとわかりやすい）

## 担当教員の実務経験

施術所において、はり師きゅう師としての実務経験を有する。

令和5年度

| 科目名 | 経絡経穴概論（触診） | 対象学科 | 鍼灸学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 白崎　史剛 | 配当年次 | 1 | 開講時期 | 通年 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | 2 |

## 授業概要

経絡経穴概論の授業の中の実技という位置づけを持ち、人体にどのように触れるかを始めとして、骨や筋肉、そして経穴の位置を把握する。テストは行わず、他の実技や東洋医学臨床論へとつながるようにする。

## 到達目標

十四経脈の流注、経穴名とその順番、部位を確実に覚え、その「ツボ」を実際の人体で骨度法を使いながら、取穴することができることを目標とする。また、その経穴に関連する筋肉、神経、動脈までの理解を目標とする。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 | 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | ■筋肉・骨の触診（上肢） | | |
| 第2回 | ■筋肉・骨の触診（上肢） | | |
| 第3回 | ■筋肉・骨の触診（下肢） | | |
| 第4回 | ■筋肉・骨の触診（下肢） | | |
| 第5回 | 督脈の取穴 | | |
| 第6回 | 任脈の取穴 | | |
| 第7回 | 手の太陰肺経・手の陽明大腸経の取穴 | | |
| 第8回 | 足の陽明胃経の取穴 | | |
| 第9回 | 足の陽明胃経（残り）・足の太陰脾経の取穴 | | |
| 第10回 | 手の少陰心経・手の太陽小腸経の取穴 | | |
| 第11回 | 足の太陽膀胱経（前半）の取穴 | | |
| 第12回 | 足の太陽膀胱経（後半）の取穴 | | |
| 第13回 | 足の少陰腎経の取穴 | | |
| 第14回 | 手の厥陰心包経・手の少陽三焦経の取穴 | | |
| 第15回 | 足の少陽胆経の取穴 | | |
| 第16回 | 足の少陽胆経（残り）・足の厥陰肝経の取穴 | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

## 授業時間外の学習

予習：次回の授業で行う範囲をイメージできるようにする。
復習：今回の授業で行った範囲を自分の身体で確認を行い、取穴することができるようにする。

## 成績評価

期末テストは行わないが、実技への出席状況や授業態度、身だしなみなどの施術者としての立ち振る舞いは経絡経穴概論として評価にしっかりと含まれる。

## 使用テキスト

教科書　「経絡経穴概論（医道の日本社）」と配布プリント
参考資料「解剖生理学（東洋療法学校協会編　医歯薬出版）」　参
考資料「プロメテウス解剖学アトラス（医学書院）」のような解剖学の図譜があるとわかりやすい）

## 担当教員の実務経験

施術所において、はり師きゅう師としての実務経験を有する。

令和5年度

| 科目名 | 基礎はりきゅう理論 | 対象学科 | 鍼灸学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 久住　喜春 | 配当年次 | 1 | 開講時期 | 1学期 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | 2 |

**授業概要**

『はりきゅう理論』（東洋療法学校協会編、医歯薬出版発行）を使用し、座学講義をおこなう。参考資料は随時提示する。

**到達目標**

はり・きゅうで使用する道具や術式について学ぶ。具体的には現代の術式と古来より伝わる術式や道具についての歴史を含め、学び説明できるようになる。

**授業計画**

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | ガイダンス･概要 |
| 第2回 | はりの基礎知識 |
| 第3回 | きゅうの基礎知識 |
| 第4回 | 刺鍼の方法と術式① |
| 第5回 | 灸術の種類① |
| 第6回 | 刺鍼の方法と術式② |
| 第7回 | 灸術の種類② |
| 第8回 | 刺鍼の方法と術式③ |
| 第9回 | 特殊鍼法① |
| 第10回 | 特殊鍼法② |
| 第11回 | 鍼灸の臨床応用 |
| 第12回 | 鍼灸の臨床応用 |
| 第13回 | リスク管理 |
| 第14回 | リスク管理 |
| 第15回 | 定期試験 |
| 第16回 | 試験解説 |
| | |
| | |
| | |
| | |

**授業時間外の学習**

事後学習：教科書、配布資料等を基に復習を行う。

**成績評価**

定期試験の得点により評価する。　定期試験100％

**使用テキスト**

『はりきゅう理論』　東洋療法学校協会編　医歯薬出版発行を使用。

**担当教員の実務経験**

施術所において、はり師きゅう師としての実務経験を有する。

令和5年度

| 科目名 | 臨床はりきゅう学 | 対象学科 | 鍼灸学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 佐々木 皓平 | 配当年次 | 2 | 開講時期 | 通年 |
| | | 授業形態 | 演習 | 単位 | 5 |

## 授業概要

現代医療と鍼灸施術の連携を視野に入れ運動器疾患を中心に各疾患の病態・用いる検査法と特徴を学習し、鍼灸治効理論をもとにした鍼灸施術方法の考え方を養う。

## 到達目標

臨床現場で遭遇する機会の多い運動器疾患を中心に
①主観的（医療面接）と客観的（徒手検査法）な情報から病態を把握すること。
②病態把握をした症状に対して人体の構造と機能から鍼灸治療の適否を見極められること。
③鍼灸の治効機序に基づき、治療法を選択し鍼灸施術を安全に、そして正確に行えること。
④インフォームドコンセントを理解し、鍼灸施術の適否が判断できる医療面接を行えること。
⑤インフォームドコンセントを理解し、正確で再現性と安全性の高い徒手検査法を行えること。
⑥①～⑤についてカルテ（施術録）に客観的に正確に記載すること。
以上すべての事項を人体の構造と機能、鍼灸治効理論の観点から理解し臨床に適用させることができること

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 | 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | オリエンテーション・ガイダンス | 第21回 | 腰殿下肢痛④　筋筋膜性疼痛・椎間関節性疼痛 |
| 第2回 | 臨床（病態把握）の基本 | 第22回 | 腰殿下肢痛まとめ |
| 第3回 | 上肢の神経とデルマトーム | 第23回 | 膝関節痛①　変形性膝関節症 |
| 第4回 | 下肢の神経とデルマトーム | 第24回 | 膝関節痛②　前十字靱帯損傷 |
| 第5回 | 表在反射・病的反射・非恒常的な反射 | 第25回 | 膝関節痛③　後十字靱帯/後外側支持機構損傷 |
| 第6回 | 頚肩腕痛①　頚椎椎間板ヘルニア | 第26回 | 膝関節痛④⑤　内・外側側副靱帯損傷 |
| 第7回 | 頚肩腕痛②　胸郭出口症候群 | 第27回 | 膝関節痛⑥　半月板損傷 |
| 第8回 | 頚肩腕痛③　肩こり | 第28回 | 膝関節痛まとめ |
| 第9回 | 頚肩腕痛④　頚椎椎間関節性疼痛 | 第29回 | 医療面接について① |
| 第10回 | 頚肩腕痛⑤靱帯骨化症 | 第30回 | 医療面接について② |
| 第11回 | 肩関節痛①　インピンジメント症候群 | 第31回 | 鍼灸カルテの記載方法① |
| 第12回 | 肩関節痛②　腱板断裂 | 第32回 | 鍼灸カルテの記載方法② |
| 第13回 | 肩関節痛③　上腕二頭筋長頭腱損傷 | 第33回 | ケーススタディ① |
| 第14回 | 肩関節痛④　凍結肩 | 第34回 | ケーススタディ② |
| 第15回 | 上肢痛・肩関節痛まとめ | 第35回 | ケーススタディ③ |
| 第16回 | 定期試験 | 第36回 | ケーススタディ④ |
| 第17回 | 定期試験返却、解説 | 第37回 | ケーススタディ⑤ |
| 第18回 | 腰殿下肢痛①　腰椎椎間板ヘルニア | 第38回 | ケーススタディ⑥ |
| 第19回 | 腰殿下肢痛②　梨状筋症候群 | 第39回 | 定期試験 |
| 第20回 | 腰殿下肢痛③　腰部脊柱管狭窄症 | 第40回 | 定期試験解説 |

## 授業時間外の学習

各自配布資料を基にした自学自習

## 成績評価

出席状況、授業参加態度（発言・提出物を含む）、定期試験の結果から総合的に評価

※注意　試験、課題等で不正があった場合に関してはその後の成績評価をしない。

## 使用テキスト

配布資料

## 担当教員の実務経験

施術所・整形外科病院において、はり師きゅう師としての実務経験を有する。

令和5年度

| 科目名 | 東洋医学臨床論 | 対象学科 | 鍼灸学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 寺田　奈生 | 配当年次 | 2 | 開講時期 | 通年 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | 5 |

## 授業概要

東洋医学臨床論は診断から鍼灸治療の適・不適を判断し、治療方法を考える科目である。
私が担当する時間では現代医学からのアプローチを考える。
1学期は経絡経穴概論と解剖学の骨・筋・神経・動脈とのつながりを確認しながら、1年次の総復習を行い、
1学期終盤から2学期にかけては疼痛や整形外科分野、3学期は内科系やその他を取り上げる。
配布プリントを使用し、座学講義を行う。随時、参考資料を提示する。
教科書は随時引用はするが、原則予習・復習用の参考資料として用いる。

## 到達目標

・各症状から疾患が考えられる。
・各疾患に対し、鍼灸の適・不適の判断ができる。
・適応疾患に対し、現代医学をベースに治療を組み立てられる。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 | 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | オリエンテーション　基礎科目理解度確認試験 | 第21回 | 上肢痛② |
| 第2回 | 上肢前面の筋と経穴（手の三陰経） | 第22回 | 肩関節痛① |
| 第3回 | 上肢後面の筋と経穴（手の三陽経） | 第23回 | 肩関節痛② |
| 第4回 | 上肢の神経支配 | 第24回 | 腰下肢痛① |
| 第5回 | 下肢の前面・外側・後面の筋と経穴①（足の三陽経） | 第25回 | 腰下肢痛② |
| 第6回 | 下肢の前面・外側・後面の筋と経穴②（足の三陽経） | 第26回 | 腰痛 |
| 第7回 | 下肢の内面の筋と経穴（足の三陰経） | 第27回 | 下肢痛① |
| 第8回 | 下肢の神経支配 | 第28回 | 下肢痛② |
| 第9回 | 体幹後面の筋と経穴 | 第29回 | 膝関節痛① |
| 第10回 | 体幹前面の筋と経穴 | 第30回 | 膝関節痛② |
| 第11回 | 全身の動脈 | 第31回 | 定期試験 |
| 第12回 | 経絡と解剖まとめ | 第32回 | 試験解説 |
| 第13回 | 疼痛概説 | 第33回 | 全範囲口頭試問 |
| 第14回 | 頭痛 | 第34回 | 胸痛・めまい |
| 第15回 | 定期試験 | 第35回 | 血圧異常① |
| 第16回 | 試験解説 | 第36回 | 血圧異常② |
| 第17回 | 顔面痛 | 第37回 | 排尿障害 |
| 第18回 | 頸肩腕痛① | 第38回 | 顔面麻痺 |
| 第19回 | 頸肩腕痛② | 第39回 | 定期試験 |
| 第20回 | 上肢痛① | 第40回 | 試験解説 |

## 授業時間外の学習

事前学習：前の回で配布されたプリントで予習を行う。
　　毎回の口頭試問範囲を記憶してくる。（2回以降）
事後学習：教科書、配布資料等を参考に復習を行う。

## 成績評価

定期試験・小テストをメインとし、出席による平常点を加味する。

## 使用テキスト

授業は配布プリントにより行う。
教科書『東洋医学臨床論』（東洋療法学校協会編、南江堂発行）は参考資料とする。

## 担当教員の実務経験

施術所において、はり師きゅう師としての実務経験を有する。

令和5年度

| 科目名 | 東洋医学臨床論 | 対象学科 | 鍼灸学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 中村　理巧 | 配当年次 | 2 | 開講時期 | 通年 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | 5 |

## 授業概要

東洋医学臨床論は、各疾患に対して診察の結果をもとに、治療の適不適を判断し、適切な鍼灸治療が行えるようにする。
自分が担当する時間では、東洋医学的なアプローチを考える。

## 到達目標

各症状から証を立てることができる。
証に対して、適切な治則・治法を考え、治療の組み立てができる。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 | 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | オリエンテーション | 第21回 | 疼痛② |
| 第2回 | 選穴・配穴 | 第22回 | 疼痛③ |
| 第3回 | 弁証① | 第23回 | 疼痛④ |
| 第4回 | 弁証② | 第24回 | 疼痛⑤ |
| 第5回 | 臓腑と関連する症候① | 第25回 | 全身の症候① |
| 第6回 | 臓腑と関連する症候② | 第26回 | 全身の症候② |
| 第7回 | 臓腑と関連する症候③ | 第27回 | 女性特有の症候① |
| 第8回 | 臓腑と関連する症候④ | 第28回 | 女性特有の症候② |
| 第9回 | 臓腑と関連する症候⑤ | 第29回 | 女性特有の症候③ |
| 第10回 | 臓腑と関連する症候⑥ | 第30回 | まとめ |
| 第11回 | 臓腑と関連する症候⑦ | 第31回 | 期末試験 |
| 第12回 | 臓腑と関連する症候⑧ | 第32回 | 期末試験解説 |
| 第13回 | 臓腑と関連する症候⑨ | 第33回 | その他の症候① |
| 第14回 | まとめ | 第34回 | その他の症候② |
| 第15回 | 期末試験 | 第35回 | 小児特有の症候 |
| 第16回 | 期末試験解説 | 第36回 | 老年特有の症候 |
| 第17回 | 臓腑と関連する症候⑦ | 第37回 | 東洋医学臨床論復習 |
| 第18回 | 臓腑と関連する症候⑧ | 第38回 | 東洋医学臨床論復習 |
| 第19回 | 臓腑と関連する症候⑨ | 第39回 | 期末試験 |
| 第20回 | 疼痛① | 第40回 | 期末試験解説 |

## 授業時間外の学習

教科書などにより、講義内容を把握しておく。
教科書、配布資料を参考に復習を行い、UMUにて小テストを行い振り返りを行う。

## 成績評価

期末試験の成績に、出席等による平常点を成績を加味する

## 使用テキスト

授業は配布プリントを中心に行う。
教科書『東洋医学臨床論』（東洋療法学校協会編、南江堂発行）

## 担当教員の実務経験

施術所において、はり師きゅう師としての実務経験を有する。

令和５年度

| 科目名 | 病態生理学 | 対象学科 | 鍼灸学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 阿江邦公 | 配当年次 | 3 | 開講時期 | 2学期 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | 1 |

## 授業概要

『臨床医学総論』第２版（東洋療法学校協会編、医歯薬出版社発行）を使用し、座学講義を行う。随時、参考資料を提示する。

## 到達目標

鍼灸臨床現場で疾病の判別をするための知識を身につけることを目的とする。
具体的には「主な症状の診察法」について説明できるようになる。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | 頭痛、顔面痛、歯痛 |
| 第2回 | 眼精疲労、鼻閉・鼻汁 |
| 第3回 | めまい、耳鳴り、難聴 |
| 第4回 | 咳・痰、息切れ、動悸、胸痛 |
| 第5回 | 腹痛、便秘、下痢、月経異常、不正性器出血 |
| 第6回 | 排尿障害、乏尿・無尿、多尿 |
| 第7回 | 浮腫、肩こり、頚肩腕痛、肩関節痛 |
| 第8回 | 上肢痛、腰下肢痛、関節痛、運動麻痺 |
| 第9回 | 食欲不振、肥満、やせ |
| 第10回 | 発熱、のぼせ・冷え、不眠、疲労・倦怠 |
| 第11回 | 発疹、ショック、出血傾向、易感染 |
| 第12回 | 貧血、眼振、口渇 |
| 第13回 | 嗄声、嚥下困難、血痰・喀血、胸水 |
| 第14回 | 悪心・嘔吐、吐血・下血、意識障害 |
| 第15回 | 定期試験 |
| 第16回 | 定期試験解説 |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 授業時間外の学習

事前学習：教科書などにより講義内容を把握しておく。
事後学習：教科書、参考資料等を使用し復習を行う。

## 成績評価

定期試験にて単位を認定する。

## 使用テキスト

『臨床医学総論　第２版』（東洋療法学校協会編、医歯薬出版社発行）を使用する。

## 担当教員の実務経験

施術所において、はり師きゅう師としての実務経験を有する。

令和５年度

| 科目名 | 社会はり・きゅう学 | 対象学科 | 鍼灸学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 濱村　舜 | 配当年次 | 3 | 開講時期 | 1学期 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | 2 |

**授業概要**

『社会あはき学』（東洋療法学校協会編、医道の日本社発行）の教科書をベースに講義・演習を行う。随時参考資料を提示する。

**到達目標**

近年の医療環境と社会的ニーズを理解し、鍼灸師がどのような業務で行うべきかを学び、鍼灸師をとりまく社会環境を理解することができる。

**授業計画**

| 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|
| 第1回 | はりきゅうはなぜ効くのか？ |
| 第2回 | はりきゅうはなぜ効くのか？② |
| 第3回 | あはき師の業務、併用するその他の療法 |
| 第4回 | 併用するその他の療法② |
| 第5回 | 高齢社会におけるあはき師の役割 |
| 第6回 | 少子化社会におけるあはき師の役割 |
| 第7回 | 女性の健康管理におけるあはき師の役割 |
| 第8回 | ストレス社会におけるあはき師の役割 |
| 第9回 | スポーツ傷害に対するあはき師の役割 |
| 第10回 | QOLの向上とあはき師の役割 |
| 第11回 | 施術所の経営展開 |
| 第12回 | 施術所の経営展開② |
| 第13回 | 卒後教育の重要性 |
| 第14回 | 卒後教育の重要性② |
| 第15回 | 定期試験 |
| 第16回 | 定期試験解説 |
| | |
| | |
| | |
| | |

**授業時間外の学習**

卒業後の進路を常に意識する。

**成績評価**

レポートの提出、出席などの成績に平常点を加味する。

**使用テキスト**

資料を配布する。

**担当教員の実務経験**

施術所において、はり師きゅう師としての実務経験を有する。

令和5年度

| 科目名 | 基礎はり・きゅう実技Ⅰ | 対象学科 | 鍼灸学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 内山　美紅 | 配当年次 | 1 | 開講時期 | 通年 |
| | | 授業形態 | 実技 | 単位 | 1 |

## 授業概要

医療人の基本となる態度、衛生操作を身につける。鍼実技の基礎基本となる、刺鍼（片手挿管・直刺・斜刺・横刺）の操作が行えるように学ぶ。施術者としてのタオルワークや患者さんへの接し方を学ぶ。医療人としての心構えを持ち施術の一連の流れを行えるように学ぶ。

## 到達目標

医療人としての接する態度や衛生操作までを含めた一連の流れ。指定された身体の各部位に安全かつ丁寧に刺鍼（片手挿管・直刺・斜刺・横刺）ができるようなる。3年次に行う実技認定試験で指定された刺鍼する部位に刺鍼できるようになる。
1学期　片手挿管（1分間で8回以上）、対人の下腿に刺鍼できるようになる　2学期　切皮痛を出さないように刺鍼をする、対人刺鍼で直刺ができるようになる
3学期　対人刺鍼で直刺・斜刺ができるようになる、特殊刺鍼に対応できるようになる

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 | 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | オリエンテーション（実技室の使い方・説明） | 第21回 | 対人刺鍼　ステンレス鍼　寸3-2　（下腿②）触診 |
| 第2回 | 鍼や道具の説明　今後の流れについて 片手挿管の練習① | 第22回 | 対人刺鍼　ステンレス鍼　寸3-2　（大腿①）触診 |
| 第3回 | 片手挿管の練習　② | 第23回 | 対人刺鍼　ステンレス鍼　寸3-2　（大腿②）　触診 |
| 第4回 | 片手挿管の練習　③ | 第24回 | 対人刺鍼　ステンレス鍼　寸3-2　（上腕・前腕）　触診 |
| 第5回 | 基本刺鍼動作の流れ・練習　①（切皮・弾入・刺入・抜鍼） | 第25回 | 対人刺鍼　ステンレス鍼　寸3-2　（背部①）　触診 |
| 第6回 | 基本刺鍼動作の流れ・練習　②（切皮・弾入・刺入・抜鍼） | 第26回 | 対人刺鍼　ステンレス鍼　寸3-2　（背部②）　触診 |
| 第7回 | 基本刺鍼動作の練習　切皮・弾入 | 第27回 | 対人刺鍼　ステンレス鍼　寸3-2　（腹部）　触診 |
| 第8回 | 基本刺鍼動作の練習　直刺 | 第28回 | 対人刺鍼　ステンレス鍼　寸3-2　（腰部・臀部）　触診 |
| 第9回 | 基本刺鍼動作の練習　斜刺 | 第29回 | 定期試験練習 |
| 第10回 | 個人刺鍼　①（下腿にステンレス鍼で自己刺鍼） | 第30回 | 定期試験 |
| 第11回 | 個人刺鍼　②（下腿に銀鍼で自己刺鍼） | 第31回 | 定期試験解説 |
| 第12回 | 対人刺鍼　①（下腿に対人刺鍼）タオルワーク | 第32回 | 対人刺鍼　ステンレス鍼　寸3-1（頭部） |
| 第13回 | 対人刺鍼　②（下腿に対人刺鍼） | 第33回 | 対人刺鍼　ステンレス鍼 01番02番03番（顔面部①） |
| 第14回 | 定期試験練習 | 第34回 | 対人刺鍼　ステンレス鍼　01番02番03番（顔面部②） |
| 第15回 | 定期試験 | 第35回 | 対人刺鍼　ステンレス鍼　寸6-3　（通電療法①） |
| 第16回 | 定期試験解説 | 第36回 | 対人刺鍼　ステンレス鍼　寸6-3（通電療法②） |
| 第17回 | 17手技の説明・練習　①　（対人刺鍼） | 第37回 | 対人刺鍼　ステンレス鍼　皮内鍼・円皮鍼 |
| 第18回 | 17手技の説明・練習　②　（対人刺鍼） | 第38回 | 定期試験練習 |
| 第19回 | 17手技の説明・練習　③　（対人刺鍼） | 第39回 | 定期試験 |
| 第20回 | 対人刺鍼　ステンレス鍼　寸3-2　（下腿①）触診 | 第40回 | 定期試験解説 |

## 授業時間外の学習

習ったことを繰り返し反復練習をする 期日内の課題の提出

## 成績評価

1学期・2学期・3学期の定期試験での評価

## 使用テキスト

東洋療法学校協会「はりきゅう理論」第3版　　東洋療法学校協会「はりきゅう実技＜基礎編＞第2版」　図解鍼灸臨床手技マニュアル　第2版　図解鍼灸療法技術ガイドⅠ　図解鍼灸療法技術ガイドⅡ

## 担当教員の実務経験

施術所において、はり師きゅう師としての実務経験を有する。

令和5年度

| 科目名 | 基礎はり・きゅう実技Ⅱ〈きゅう〉 | 対象学科 | 鍼灸学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 中村　理巧・堀　春雄 | 配当年次 | 1 | 開講時期 | 通年 |
| | | 授業形態 | 実技 | 単位 | 2 |

## 授業概要

医療人として適切な態度、衛生面を身に付ける。
基礎的な施灸の行える技術と知識を身に付け安全に施灸を行えるようにする。
経穴の特性を理解しながら各種施灸法の訓練を行う。被験者となる学生同士の自主性が求められる内容とする。
灸の基本実技は、比較的行いやすい部位で練習するが、本授業においては体幹部においてへの施灸練習となるため、患者を想定した負担とならない姿勢で行うため身体の斜面など様々な部位への施灸の実技を行う。

## 到達目標

灸の基本的技術を身に付け実行できるようになることを目標とする。
透熱灸による人体へ配慮した施灸ができるようになる。
1学期：失眠穴へ半米粒大左右どちらかに施灸10壮/3分
2学期：失眠穴へ半米粒大2点5壮で10壮以上/3分
3学期：澤田流基本穴の取穴と施灸

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 | 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | ガイダンス、使用道具の確認 | 第21回 | 吸角 |
| 第2回 | 灸の基礎知識、こより・艾炷の作成 | 第22回 | 棒灸 |
| 第3回 | 灸術の種類、艾炷の作成練習 | 第23回 | 上背部への施灸 |
| 第4回 | 灸の刺激量・医療過誤、艾炷の作成練習 | 第24回 | 腰背部への施灸 |
| 第5回 | リスクの管理、艾炷の点火 | 第25回 | 腰部への施灸 |
| 第6回 | 艾炷への点火、灸温度計、自身への施灸 | 第26回 | 腹部への施灸 |
| 第7回 | 自身への施灸 | 第27回 | 頭部への施灸　灸頭鍼 |
| 第8回 | 相手の失眠への施灸 | 第28回 | 灸頭鍼 |
| 第9回 | 相手の失眠への施灸 | 第29回 | 灸頭鍼、 |
| 第10回 | 足部への施灸 | 第30回 | 総復習 |
| 第11回 | 足部への施灸 | 第31回 | 期末試験 |
| 第12回 | 前腕への施灸 | 第32回 | 期末試験総評 |
| 第13回 | 前腕への施灸 | 第33回 | 沢田流の概念、臨床のデモ、施灸の仕方 |
| 第14回 | 試験前練習 | 第34回 | 沢田流の基本穴【仰臥位】取穴と施灸の意義、施灸練習 |
| 第15回 | 期末試験 | 第35回 | 沢田流の基本穴【伏臥位】取穴と施灸の意義、施灸練習 |
| 第16回 | 期末試験総評 | 第36回 | 基本穴の取穴確認 |
| 第17回 | 足趾・足関節への施灸 | 第37回 | 基本穴に手際よく施灸 |
| 第18回 | 手指・手関節への施灸 | 第38回 | 沢田流の応用編　疾患別　消化器疾患(便秘) |
| 第19回 | 隔物灸、温筒灸 | 第39回 | 沢田流の応用編　疾患別　婦人科疾患（生理痛） |
| 第20回 | 知熱灸 | 第40回 | 基本穴（脾兪穴、腎兪穴）への施灸確認(期末試験) |

## 授業時間外の学習

艾の感触になれる、施灸動作の反復練習、施灸穴の予習

## 成績評価

定期試験により評価を行う。

## 使用テキスト

『はりきゅう実技〈基礎編〉』　『はりきゅう理論』　医道の日本社 『まるごとお灸百科』医道の日本社

## 担当教員の実務経験

施術所において、はり師きゅう師としての実務経験を有する。

令和５年度

| 科目名 | 応用はりきゅう実技Ⅰ | 対象学科 | 鍼灸学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 森 孝史 | 配当年次 | 2 | 開講時期 | 通年 |
| | | 授業形態 | 実技 | 単位 | 2 |

## 授業概要

・演習、実技形式の授業で切診技術を中心に東洋医学的鍼灸施術を学ぶ。
・古典「難経」を読み、東洋医学的鍼灸施術の理解を深める。
・東洋的な考え方に基づく治療法である「積聚治療」を習得する。

## 到達目標

・四診技術を身に着け、臨床に使用出来るようになる。
・古典に少しでも興味を持てるようになる。
・「積聚治療」の基本治療の手順を習得して、実際の臨床に使用出来るようになる。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 | 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | ガイダンス・刺鍼練習・施灸練習 | 第21回 | 治療の終了（座位）、実技（座位での刺鍼、基本刺鍼） |
| 第2回 | 東洋医学・伝統鍼灸について、四診 | 第22回 | 基本治療の手順実技練習（2組） |
| 第3回 | 古典（素問・霊枢・難経）紹介、脈診（N１・N8・N23） | 第23回 | 基本治療の手順実技練習（2組） |
| 第4回 | 比較脈診（六部定位脈診：N2・N18） | 第24回 | 積聚治療基本治療の手順　筆記試験 |
| 第5回 | 脈診治療（N69） | 第25回 | 積聚治療基本治療の手順　実技確認１、基本刺鍼 |
| 第6回 | 脈診小テスト、知熱灸、刺鍼練習・施灸練習 | 第26回 | 補助治療講義（浅い気）、積聚治療基本治療の手順　実技確認2 |
| 第7回 | 積聚治療の概要、実技供覧、SJ銀鍼の基本操作 | 第27回 | 補助治療講義（深い気）、積聚治療基本治療の手順　実技確認3 |
| 第8回 | 積聚治療理論 | 第28回 | 補助治療（積に従った要穴治療） |
| 第9回 | 積聚治療理論、基本刺鍼練習 | 第29回 | 補助治療（井穴・滎穴・兪穴） |
| 第10回 | 腹部接触鍼、指標理論（膝周辺） | 第30回 | 刺鍼技術、補助治療（散鍼・円鍼・鍉鍼実技） |
| 第11回 | 脈診、腹部接触鍼の復習 | 第31回 | 病証、補助治療（長鍼実技・大鍼供覧） |
| 第12回 | 脈診の練習 | 第32回 | 補助治療（灸頭鍼実技） |
| 第13回 | 脈調整、治療実技（～脈調整） | 第33回 | お互いに治療　1-1　（基本治療+補助治療） |
| 第14回 | 腹部の区分と腹診の仕方、実技（腹部区分マーク） | 第34回 | お互いに治療　1-2　（基本治療+補助治療） |
| 第15回 | 腹部区分と腹診の復習、治療実技（～腹証決定） | 第35回 | お互いに治療　1-3　（基本治療+補助治療） |
| 第16回 | 腹部区分筆記試験、腹診の復習 | 第36回 | 補助治療（督脈知熱灸） |
| 第17回 | 背部縦横の区分、実技（背部区分マーク） | 第37回 | お互いに治療　2-1　（基本治療+督脈補助治療） |
| 第18回 | 背部接触鍼、指標、実技（指標マーク） | 第38回 | お互いに治療　2-2　（基本治療+督脈補助治療） |
| 第19回 | 背部接触鍼、背部取穴、実技（背部取穴マーク） | 第39回 | お互いに治療　2-3　（基本治療+督脈補助治療） |
| 第20回 | 治療実技（～背部４穴刺鍼） | 第40回 | 総復習、治療実技、質疑応答 |

## 授業時間外の学習

・刺鍼練習、施灸練習を各自行う。

## 成績評価

・実技試験、筆記試験、課題＆提出物の成績に出席状況（欠席減点）を加味し、評価する。60点以上を合格とする。
1学期：脈診小テスト[第6回]・脈診課題[第12回]・腹部区分筆記試験[第16回]・出席状況で評価する。
2学期：積聚治療基本治療の手順筆記試験［第24回］・出席状況で評価する。
3学期：出席状況（8回×10点）と施術者時カルテ提出（2回×10点）で評価する。

## 使用テキスト

・プリント教材配布

## 担当教員の実務経験

施術所において、はり師きゅう師としての実務経験を有する。

令和5年度

| 科目名 | 応用はりきゅう実技Ⅱ | 対象学科 | 鍼灸学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 佐々木 皓平 | 配当年次 | 2 | 開講時期 | 通年 |
| | | 授業形態 | 実技 | 単位 | 2 |

## 授業概要

昨今、鍼灸は様々な場で活用が期待されている。本時では特に整形外科を始めとする西洋医学の領域で鍼灸師が円滑に医療連携を行うために、体表解剖・触察の知識と、刺鍼の正確性を養うための科目である。

## 到達目標

臨床現場で治療する機会の多い主な筋を中心に
①組織を選択し正確に触察できる。
②組織を選択し正確に再現性のある刺鍼ができる。
③自身の触察、刺鍼している選択した組織を解剖学的に説明ができる。
④自身の治療対象に選択した組織の所見をカルテに論理的に記載できる。
上記①～④を踏まえた上で、鍼通電療法について学習し、同職種、他職種間でのコミュニケーションに齟齬のない知識技能を習得することを目的とする。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 | 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | オリエンテーション・ガイダンス | 第21回 | 復習②　肩関節部 |
| 第2回 | 鍼通電療法の基本①（刺鍼練習） | 第22回 | 鍼通電療法　多裂筋（最長筋、腸肋筋） |
| 第3回 | 鍼通電療法の基本②（刺鍼練習） | 第23回 | 鍼通電療法　多裂筋（最長筋、腸肋筋） |
| 第4回 | 鍼通電療法の基本③（刺鍼練習） | 第24回 | 鍼通電療法　中殿筋、大腿筋膜張筋 |
| 第5回 | 鍼通電療法の基本④（刺鍼練習） | 第25回 | 鍼通電療法　内側広筋斜頭、外側広筋斜走線維 |
| 第6回 | 鍼通電療法の基本⑤（刺鍼練習） | 第26回 | 復習③　腰殿部 |
| 第7回 | 鍼通電療法の基本⑥（刺鍼練習） | 第27回 | 鍼通電療法　内側広筋斜頭、外側広筋斜走線維、大腿直筋 |
| 第8回 | 鍼通電療法　僧帽筋上部線維 | 第28回 | 鍼通電療法　大腿二頭筋、半腱様筋、半膜様筋① |
| 第9回 | 鍼通電療法　僧帽筋上部線維 | 第29回 | 鍼通電療法　大腿二頭筋、半腱様筋、半膜様筋② |
| 第10回 | 鍼通電療法　僧帽筋上部線維 | 第30回 | 復習④　膝関節部 |
| 第11回 | 鍼通電療法　僧帽筋鎖骨部（頚部）線維 | 第31回 | 定期試験 |
| 第12回 | 鍼通電療法　僧帽筋鎖骨部（頚部）線維 | 第32回 | 定期試験解説 |
| 第13回 | 鍼通電療法　僧帽筋鎖骨部（頚部）線維 | 第33回 | ケーススタディ① |
| 第14回 | 復習①　頚肩部 | 第34回 | ケーススタディ② |
| 第15回 | 定期試験 | 第35回 | ケーススタディ③ |
| 第16回 | 定期試験返却、解説 | 第36回 | ケーススタディ④ |
| 第17回 | 鍼通電療法　棘上筋、棘下筋、小円筋 | 第37回 | ケーススタディ⑤ |
| 第18回 | 鍼通電療法　棘上筋、棘下筋、小円筋 | 第38回 | 本時の総括 |
| 第19回 | 鍼通電療法　大円筋、広背筋 | 第39回 | 定期試験 |
| 第20回 | 鍼通電療法　大円筋、広背筋 | 第40回 | 定期試験解説 |

## 授業時間外の学習

各自配布資料を基にした自学自習（特に解剖学的知識の復習）

## 成績評価

出席状況、授業参加態度（発言・提出物を含む）、定期試験の結果から総合的に評価

※注意　試験、課題等で不正があった場合に関してはその後の成績評価をしない。

## 使用テキスト

配布資料

## 担当教員の実務経験

施術所・整形外科病院において、はり師きゅう師としての実務経験を有する。

令和５年度

| 科目名 | 臨床はりきゅう実技Ⅰ | 対象学科 | 鍼灸学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 金子　公憲 | 配当年次 | 3 | 開講時期 | 通年 |
| | | 授業形態 | 実技 | 単位 | 2 |

## 授業概要

東洋医学的診断による証の立て方を学ぶ。
実技練習を中心に経絡治療を学ぶ。

## 到達目標

１・２年次に習得した、知識、技術の向上。
実践的治療形式練習を行うことで、臨床の実際を身につける。
経絡治療特有の脈診により、証を立て治療ができるようになる。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 | 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | 経絡治療について・ガイダンス | 第21回 | お互いに治療 |
| 第2回 | 脈診（六部定位脈診）・刺鍼練習（押手・刺手） | 第22回 | お互いに治療 |
| 第3回 | 脈診・背部兪穴への刺鍼練習 | 第23回 | お互いに治療 |
| 第4回 | 経絡流注の意義・刺鍼練習 | 第24回 | お互いに治療 |
| 第5回 | 四診と証 | 第25回 | お互いに治療 |
| 第6回 | 六部定位脈診と証 | 第26回 | お互いに治療 |
| 第7回 | 基本四証 | 第27回 | お互いに治療 |
| 第8回 | 脈診・腹診と基本四証 | 第28回 | お互いに治療 |
| 第9回 | 脈診・腹診と標治法 | 第29回 | 実技試験 |
| 第10回 | お互いに治療 | 第30回 | 実技試験 |
| 第11回 | お互いに治療 | 第31回 | 総括・復習 |
| 第12回 | お互いに治療 | 第32回 | 特殊鍼法 |
| 第13回 | 実技試験 | 第33回 | 特殊鍼法 |
| 第14回 | 基本四証と要穴 | 第34回 | 特殊鍼法 |
| 第15回 | 脈診・腹診と要穴 | 第35回 | 特殊鍼法 |
| 第16回 | 問診・本治法 | 第36回 | 特殊鍼法 |
| 第17回 | 本治法 | 第37回 | 特殊鍼法 |
| 第18回 | 補瀉の手技 | 第38回 | 特殊鍼法 |
| 第19回 | 本治法・補助穴 | 第39回 | 特殊鍼法 |
| 第20回 | お互いに治療 | 第40回 | 総括 |

## 授業時間外の学習

脈診は毎日の繰り返しで身につく技術である、時間、場所を問わず脈を診るという習慣を身につけるよう各自行う。

## 成績評価

授業態度・出席・実技試験より総合的に評価する。

## 使用テキスト

プリント配布、東洋医学概論、経穴概論

## 担当教員の実務経験

施術所において、はり師きゅう師としての実務経験を有する。

令和５年度

| 科目名 | 臨床はりきゅう実技Ⅱ | 対象学科 | 鍼灸学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 河原　保裕 | 配当年次 | 3 | 開講時期 | 通年 |
| | | 授業形態 | 実技 | 単位 | 2 |

## 授業概要

中医学の考え方を基礎に、臨床の現場に近い形で、東洋医学による診察・診断・治療ができるようになり、また自分の診断結果や治療内容について説明することができるようにする。また、そのための刺鍼トレーニングを行う。

## 到達目標

１．各疾患に対し、基本的な処方、刺鍼が行えるようにする。
２．東洋医学的な自分の診察スタイル、診察の流れが作れる。
３．問題解決能力（証決定、証鑑別、治療の組み立て、施術を含む）を身につける。
４．自分の判断した証決定、治療の組み立てについて説明することができる。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 | 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | オリエンテーション　切皮・刺入 | 第21回 | 頭痛 |
| 第2回 | 刺鍼法 | 第22回 | 咳嗽 |
| 第3回 | 補瀉手技 | 第23回 | 咳嗽 |
| 第4回 | 補瀉手技 | 第24回 | 便秘 |
| 第5回 | 補瀉手技 | 第25回 | 吸玉療法 |
| 第6回 | 補瀉手技 | 第26回 | 吸玉療法 |
| 第7回 | 痺証解説・坐骨神経痛 | 第27回 | 月経痛・棒灸 |
| 第8回 | 腰痛 | 第28回 | 月経痛 |
| 第9回 | 腰部脊柱管狭窄症 | 第29回 | 更年期障害 |
| 第10回 | 肩こり | 第30回 | 泌尿器疾患 |
| 第11回 | 肩関節痛 | 第31回 | 期末試験 |
| 第12回 | 膝痛 | 第32回 | 眼精疲労 |
| 第13回 | 頚痛 | 第33回 | 鼻炎 |
| 第14回 | 挾脊刺・盤龍刺 | 第34回 | 耳鍼 |
| 第15回 | 期末試験 | 第35回 | 耳鍼 |
| 第16回 | 弁証論治 | 第36回 | 醒脳開竅法 |
| 第17回 | 弁証論治　症例　治療の組立 | 第37回 | 醒脳開竅法 |
| 第18回 | 胃脘痛 | 第38回 | 末梢性顔面神経麻痺 |
| 第19回 | 胃脘痛 | 第39回 | 末梢性顔面神経麻痺 |
| 第20回 | 頭痛 | 第40回 | 認知症（三焦鍼法） |

## 授業時間外の学習

東洋医学（中医学）の基礎を復習する。
各疾患における鍼灸が適応か否かの鑑別診断を行えるよう復習をする。

## 成績評価

学習者を対象に習得した行動目標の技能レベルを評価する。
担当教員により、実技試験を実施し、100点満点中60点以上を獲得した学生に単位を認定する。

## 使用テキスト

担当教員より資料を配布する。

## 担当教員の実務経験

施術所において、はり師きゅう師としての実務経験を有する。

令和５年度

| 科目名 | 臨床はりきゅう実技Ⅲ | 対象学科 | 鍼灸学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 似田　敦、小井土喜彦、前田尚子 | 配当年次 | 3 | 開講時期 | 通年 |
| | | 授業形態 | 実技 | 単位 | 2 |

## 授業概要

「腰痛」、「下肢痛」、「肩こり」、「膝の痛み」など臨床で多く扱う疾患の治療は自信をもって出来るようになること、さらに臨床では女性の患者様も多いので「婦人科疾患」「自律神経疾患」などの女性特有の症状に対してもしっかりと身に付けます。

## 到達目標

「腰痛」、「下肢痛」、「肩こり」、「膝の痛み」など臨床で多く扱う疾患の治療は自信をもって出来るようになることを目標とします。さらに臨床では女性の患者様も多いので「婦人科疾患」「自律神経疾患」などの女性特有の症状に対してもしっかりと身に付ける必要があります。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 | 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | 腰痛の鍼灸治療 | 第21回 | 後遺症の鍼灸治療（ヘルペス、コロナ、頸椎捻挫など） |
| 第2回 | 腰痛の鍼灸治療 | 第22回 | 後遺症の鍼灸治療（ヘルペス、コロナ、頸椎捻挫など） |
| 第3回 | 腰下肢痛の鍼灸治療 | 第23回 | 小児の鍼灸治療（夜尿、夜泣き、疳の虫、小児のアトピー） |
| 第4回 | 腰下肢痛の鍼灸治療 | 第24回 | 小児の鍼灸治療（夜尿、夜泣き、疳の虫、小児のアトピー） |
| 第5回 | 膝関節痛の鍼灸治療 | 第25回 | 自律神経・精神疾患（自律神経失調症、うつ、冷えなど） |
| 第6回 | 膝関節痛の鍼灸治療 | 第26回 | 自律神経・精神疾患（自律神経失調症、うつ、冷えなど） |
| 第7回 | 頚腕痛の鍼灸治療 | 第27回 | 女性のライフサイクルと東洋医学 |
| 第8回 | 頚腕痛の鍼灸治療 | 第28回 | 女性のライフサイクルと東洋医学 |
| 第9回 | 肩関節痛の鍼灸治療 | 第29回 | 月経関連症状の鍼灸治療 |
| 第10回 | 肩関節痛の鍼灸治療 | 第30回 | 月経関連症状の鍼灸治療 |
| 第11回 | 上肢部の鍼灸治療 | 第31回 | 更年期障害の鍼灸治療 |
| 第12回 | 上肢部の鍼灸治療 | 第32回 | 更年期障害の鍼灸治療 |
| 第13回 | 下肢部の鍼灸治療 | 第33回 | 不妊症の鍼灸治療 |
| 第14回 | 下肢部の鍼灸治療 | 第34回 | 不妊症の鍼灸治療 |
| 第15回 | 実技試験 | 第35回 | つわりの鍼灸治療 |
| 第16回 | 実技試験 | 第36回 | つわりの鍼灸治療 |
| 第17回 | 触診と手の作り方、お灸のかかわり方 | 第37回 | 逆子の鍼灸治療 |
| 第18回 | 触診と手の作り方、お灸のかかわり方 | 第38回 | 逆子の鍼灸治療 |
| 第19回 | 耳鼻科疾患とその他（耳鳴り、耳につまり、眩暈、花粉症、しもやけ、など） | 第39回 | 産後の肥立ちの鍼灸治療 |
| 第20回 | 耳鼻科疾患とその他（耳鳴り、耳につまり、眩暈、花粉症、しもやけ、など） | 第40回 | 産後の肥立ちの鍼灸治療 |

## 授業時間外の学習

1.上記疾患の病態や臨床症状、鑑別、最近のトピックスについて説明する。
2.検査法や実際の施術方法は、教員がモデルを使って実際に行う。
3.三人一組となり実際に鍼灸施術を行い、教員が個々にそれを指導する。

## 成績評価

1.実技試験（刺鍼の実技、取穴、口答試問）・筆記試験（記述式）および出席状況や授業態度を総合的に評価し判定する。
2.試験範囲は、すべて授業中の内容とする。
3.評価点60点以上で単位認定とする。

## 使用テキスト

毎回、テキストを配布する。
【参考】鍼灸療法技術ガイドⅠ＆Ⅱ

## 担当教員の実務経験

施術所において、はり師きゅう師としての実務経験を有する。

令和５年度

| 科目名 | 東洋医療総合講座Ⅰ | 対象学科 | 鍼灸学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 森 孝史 | 配当年次 | 3 | 開講時期 | 通年 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | 5 |

## 授業概要

・東洋医学概論、東洋医学臨床論、経絡経穴概論、はりきゅう理論の復習を座学形式で行う。

## 到達目標

・東洋医学概論、東洋医学臨床論、経絡経穴概論、はりきゅう理論の知識を深める。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 | 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | ガイダンス・東洋医学概論復習 | 第21回 | 経絡経穴概論＜四択問題・解説＞ |
| 第2回 | 東洋医学概論復習 | 第22回 | 東概・経穴　各項目＜四択問題・解説＞ |
| 第3回 | 東洋医学概論復習 | 第23回 | 東概・経穴　各項目＜四択問題・解説＞ |
| 第4回 | 東洋医学概論復習 | 第24回 | 東概・経穴　各項目＜四択問題・解説＞ |
| 第5回 | 経絡経穴概論復習 | 第25回 | 総復習A（四択試験・解説） |
| 第6回 | 経絡経穴概論復習 | 第26回 | 総復習A（四択試験・解説） |
| 第7回 | 経絡経穴概論復習 | 第27回 | 復習（H30統一改）総復習B（四択試験・解説） |
| 第8回 | 1学期中間試験（4択50問） | 第28回 | 業者模擬試験（統一）解説 |
| 第9回 | 中間試験解説、はりきゅう理論復習 | 第29回 | 総復習B（四択試験・解説） |
| 第10回 | はりきゅう理論復習 | 第30回 | ２学期末試験 |
| 第11回 | はりきゅう理論復習 | 第31回 | 期末試験解説、復習 |
| 第12回 | はりきゅう理論復習 | 第32回 | 総復習C（四択試験・解説） |
| 第13回 | 東洋医学臨床論復習 | 第33回 | 第31回理教連PM　実施 |
| 第14回 | 東洋医学臨床論復習 | 第34回 | 第31回理教連PM　解説 |
| 第15回 | １学期末試験（4択50問） | 第35回 | 総復習C（四択試験・解説） |
| 第16回 | 期末試験解説、1学期復習 | 第36回 | ３学期末試験 |
| 第17回 | 東洋医学概論＜四択問題・解説＞ | 第37回 | ３学期末試験解説 |
| 第18回 | 東洋医学臨床概論＜四択問題・解説＞ | 第38回 | 総復習D（四択試験・解説） |
| 第19回 | はりきゅう理論前半＜四択問題・解説＞ | 第39回 | 総復習D（四択試験・解説） |
| 第20回 | はりきゅう理論後半＜四択問題・解説＞ | 第40回 | 国家試験解説、業界紹介 |

## 授業時間外の学習

・教科書、配布資料等を参考に復習を行う。

## 成績評価

1学期：中間試験（50問）素点+期末試験（50問）素点÷２を評価点とし、60問以上得点で合格とする。
2学期：期末試験（50問）中、30問以上得点で合格とする。
3学期：期末試験（90問）中、54問以上得点で合格とする。

## 使用テキスト

・『新版　東洋医学概論』（東洋療法学校協会編、医道の日本社発行）
・『新版　経絡経穴概論』（東洋療法学校協会編、医道の日本社発行）
・『東洋医学臨床論＜はりきゅう編＞』（東洋療法学校協会編、医道の日本社発行）
・『はりきゅう理論』（東洋療法学校協会編、医道の日本社発行）　他：配布プリント

## 担当教員の実務経験

施術所において、はり師きゅう師としての実務経験を有する。

令和５年度

| 科目名 | 東洋医療総合講座Ⅱ | 対象学科 | 鍼灸学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 山上　正典 | 配当年次 | 3 | 開講時期 | 通年 |
| | | 授業形態 | 講義 | 単位 | 5 |

## 授業概要

西洋医学の基礎科目となる解剖学・生理学・病理学、応用科目である臨床医学総論・各論、リハビリテーション医学について、総復習を行う。毎回授業の冒頭で前回及び１か月前の範囲の確認小テストを行うものとする。

## 到達目標

西洋医学の基礎となる解剖学・生理学・病理学の基礎の徹底を図る、また、3学期に医療概論、公衆衛生学、関係法規、臨床医学総論・各論、リハビリテーション医学の重要事項が習熟できるように、問題演習も取り入れていく。

## 授業計画

| 回数 | 授業計画・内容 | 回数 | 授業計画・内容 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | ガイダンス・実力テスト解説 | 第21回 | 生理学⑥ |
| 第2回 | 解剖学① | 第22回 | 生理学⑦ |
| 第3回 | 解剖学② | 第23回 | 生理学⑧ |
| 第4回 | 解剖学③ | 第24回 | 生理学⑨ |
| 第5回 | 解剖学④ | 第25回 | 生理学⑩ |
| 第6回 | 解剖学⑤ | 第26回 | 生理学⑪ |
| 第7回 | 解剖学⑥ | 第27回 | 病理学① |
| 第8回 | 中間試験 | 第28回 | 病理学② |
| 第9回 | 中間試験解説 | 第29回 | 病理学③ |
| 第10回 | 解剖学⑦ | 第30回 | １・２学期総復習 |
| 第11回 | 解剖学⑧ | 第31回 | 定期試験 |
| 第12回 | 解剖学⑨ | 第32回 | 定期試験解説 |
| 第13回 | 生理学① | 第33回 | 臨床医学総論・各論① |
| 第14回 | １学期総復習 | 第34回 | 臨床医学総論・各論② |
| 第15回 | 定期試験 | 第35回 | 臨床医学総論・各論③ |
| 第16回 | 定期試験解説 | 第36回 | リハビリテーション医学 |
| 第17回 | 生理学② | 第37回 | 医療概論・関係法規 |
| 第18回 | 生理学③ | 第38回 | 公衆衛生学 |
| 第19回 | 生理学④ | 第39回 | 総復習（四択試験・解説） |
| 第20回 | 生理学⑤ | 第40回 | 総復習（四択試験・解説） |

## 授業時間外の学習

事前学習：教科書などにより講義内容を把握しておく。
事後学習：演習問題について知識が曖昧な個所について教科書・過去問集を参考に復習を行う。

## 成績評価

1学期：中間試験（50問）素点+期末試験（50問）素点÷２を評価点とし、60問以上得点で合格とする。
2学期：期末試験（50問）中、30問以上得点で合格とする。
3学期：期末試験（90問）中、54問以上得点で合格とする。

## 使用テキスト

配付プリント

## 担当教員の実務経験

施術所においてはり師きゅう師としての実務経験を有する。